

【 128 】

氏名	瀧澤 正		
学位の種類	医学博士		
学位授与番号	博乙第1946号		
学位授与の日付	昭和63年9月30日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者（学位規則第5条第2項該当）		
学位論文題目	小児弾発母指の病理組織学的研究		
論文審査委員	教授 栗井通泰	教授 赤木忠厚	教授 村上宅郎

### 学位論文内容の要旨

小児弾発母指は腱と腱鞘との滑動の障害によって発症するとされるが、本症の成因は確立されておらず、病理組織学的に検討された論文は少ない。本研究は、弾発母指の診断で過去2年間に手術された19例21指（年齢1～6歳，男10例，女9例）の腱鞘および腱膨隆部を採取し、組織化学的検索を行なうとともに走査型および透過型電子顕微鏡により観察した。

腱膨隆部に一致して無定形物質とコラーゲン線維の増加が観察され、組織化学的検索では無定形物質は硫酸基を含む酸性ムコ多糖類が主体であると考えられた。走査型電子顕微鏡による観察では、腱膨隆部の中層部に0.1  $\mu$ ～0.15  $\mu$ のコラーゲン原線維の網目構造がみられ、これらは新生のコラーゲン原線維と考えられた。透過型電子顕微鏡による観察では線維芽細胞の内外にルテニウム・レッドに濃染する顆粒状物質が認められ、これらの線維芽細胞が酸性ムコ多糖類とコラーゲン原線維を産生しているものと考えられた。これらの所見より腱内膜および腱上膜内の線維芽細胞が何らかの機転で化生をおこし、酸性ムコ多糖類およびコラーゲン線維産生能を増し、腱束間に蓄積したために腱膨隆が生じ、小児弾発母指の臨床症状を呈すものと考えられた。

### 論文審査の結果の要旨

本研究は小児弾発母指で手術された19例21指の腱鞘および腱膨隆部採取標本につき組織化学並びに電顕観察を行ったものである。その結果本疾患が腱内膜および腱上膜内の線維芽細胞が何らかの機転で化生をおこし酸性ムコ多糖類およびコラーゲン線維産生能を増し、腱膨隆が生じ、本疾患を生じたものと結論した。

本研究は従来充分確立されていなかった小児弾発母指の病因につき重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。